

九州大学統合移転事業に伴う 近代建築物の取り扱いについて



伊都キャンパス



箱崎キャンパス

平成28年2月



KYUSHU UNIVERSITY

ー統合移転事業の主な背景ー

- キャンパス分散立地に起因する専攻教育と全学教育の分離解消
- 施設の老朽化と狭隘化による研究教育環境のポテンシャル低下
- 箱崎地区における航空機騒音、振動による研究教育への影響



ー目的ー

時代の変化に応じて自律的に変革し、活力を維持し続ける
開かれた大学の構築と相応しい研究・教育拠点の創造



移転スケジュールと進捗状況

第Ⅰステージ**(平成17～19年度)**

総数：約 5,200人
(学生 4,200人、
教職員 1,000人)
[移転人数：約5,200人]

工学系〔工学部建築学科を除く〕
理系図書館Ⅰ

箱崎より移転完了
(～H18年度)
第Ⅰステージ終了

第Ⅱステージ**(平成20～23年度)**

総数：約 10,800人
(学生 9,500人、
教職員 1,300人)
[移転人数：約5,600人]
基幹教育院
比較社会文化研究院
言語文化研究院
数理学研究院
理学部数学科
マス・フォア・インダストリ研究所
理系図書館Ⅱ

六本松より移転完了
(～H21年10月)
第Ⅱステージ終了

第Ⅲステージ
平成24～30年度

総数：約 18,700人
(学生 15,500人、教職員 3,200人)
[移転人数：約7,900人]

カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所
次世代燃料電池産学連携研究センター
椎木講堂
伊都協奏館・ドミトリーⅢ
共進化社会システムイノベーション施設
理学系

附属図書館 (H28・H30)**情報基盤研究開発センター (H28)****人文社会科学系 (H30)**

**人文科学研究院、人間環境学研究院〔工学部建築学科を含む〕、
法学研究院、経済学研究院、統合新領域学府
農学系 (H30)
農学研究院、附属農場
その他 (H30)
留学生センター、事務局、
課外活動施設など**

※第Ⅲステージにおける朱書き
は今後の移転予定を示す。
なお、()は年度を表す。

【用地再取得】**H24年度完了**

平成27年10月1日現在



■移転事業に掛かる財源

【財 源】

1. 国からの補助金

・移転事業に掛かる借入金を返済する為には、箱崎キャンパス等を早期に適正な価格で売却する必要がある

2. 借入金

●土地売却財源により返済

対象エリア：箱崎キャンパス、原町農場、香椎浜 等

〔借入金による施設整備〕

・理学系、図書館、人文社会科学系、農場、課外活動施設 等

〔借入先〕

・民間金融機関による借入

※ 建物解体費用、土壌汚染調査・処理費用、埋蔵文化財調査費用等も土地売却財源により賄う

3. 寄附金

4. 競争的資金(特定の研究資金)

■箱崎キャンパス跡地処分にあって必要な対応

○土壤汚染の調査及び除去

- ・箱崎キャンパス跡地は、工学・理学・農学系の研究室等が存在していたことにより、土壤汚染のおそれがある。
- ・土壤汚染有りの際は、汚染の除去が必要。

○埋蔵文化財の調査

- ・箱崎キャンパス跡地は、元寇防塁・箱崎遺跡という2種類の埋蔵文化財包蔵地に指定されている
- ・重要な遺構・遺跡有りの際は、遺跡公園等の用途に跡地利用が制限される

- ・跡地を利用する事業者のリスクを低減する為、土地売却までに、土壤汚染及び埋蔵文化財の調査が必要。

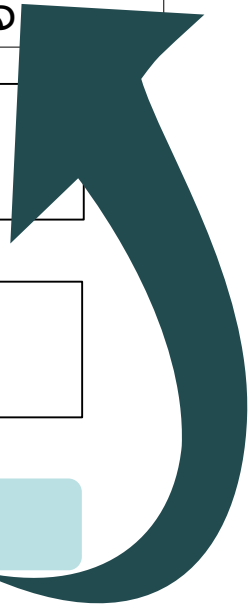


- ・調査には時間を要する。調査結果次第では、更なる時間及び費用が必要。
- ・よって、調査可能な土地より、順次対応していく必要がある。



○建物の解体

- ・土壤汚染及び埋蔵文化財の調査をするには、建物を解体する必要がある。

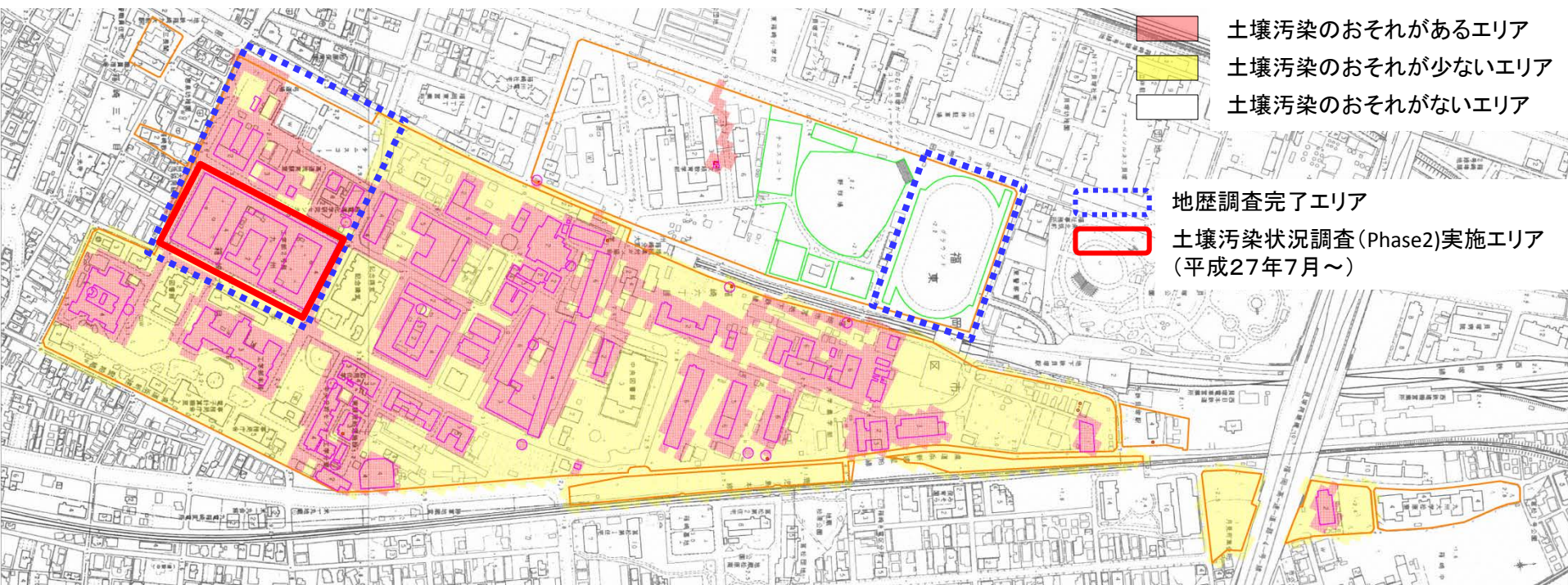


■土壌汚染調査等の現状

- ・平成22年度に簡易的な地歴調査(平成23年3月時点)を実施。

指定調査機関が行った調査の結果によると、地歴や建物毎の特定有害物質の使用等の履歴から、理系キャンパスについてはほぼ全域が土壌汚染のおそれがある もしくは おそれが少ないエリアとなっている。

- ・平成26年度に工学系西エリア及び文系地区グラウンドの地歴調査(平成27年3月時点)を実施。
- ・平成27年7月より旧工学部2号館跡地の土壌汚染状況調査(Phase2)を実施中。
- ・平成27年8月より地歴調査未実施エリア(理・農・文)の地歴調査を実施中。
- ・土壌汚染の調査及び除染は、排水設備とその上流施設の調査及び除去を併せて行う必要があり、解体迄の期間の長期化が見込まれる施設が上流にある場合は、排水設備の切替えが必要となる可能性も有る。

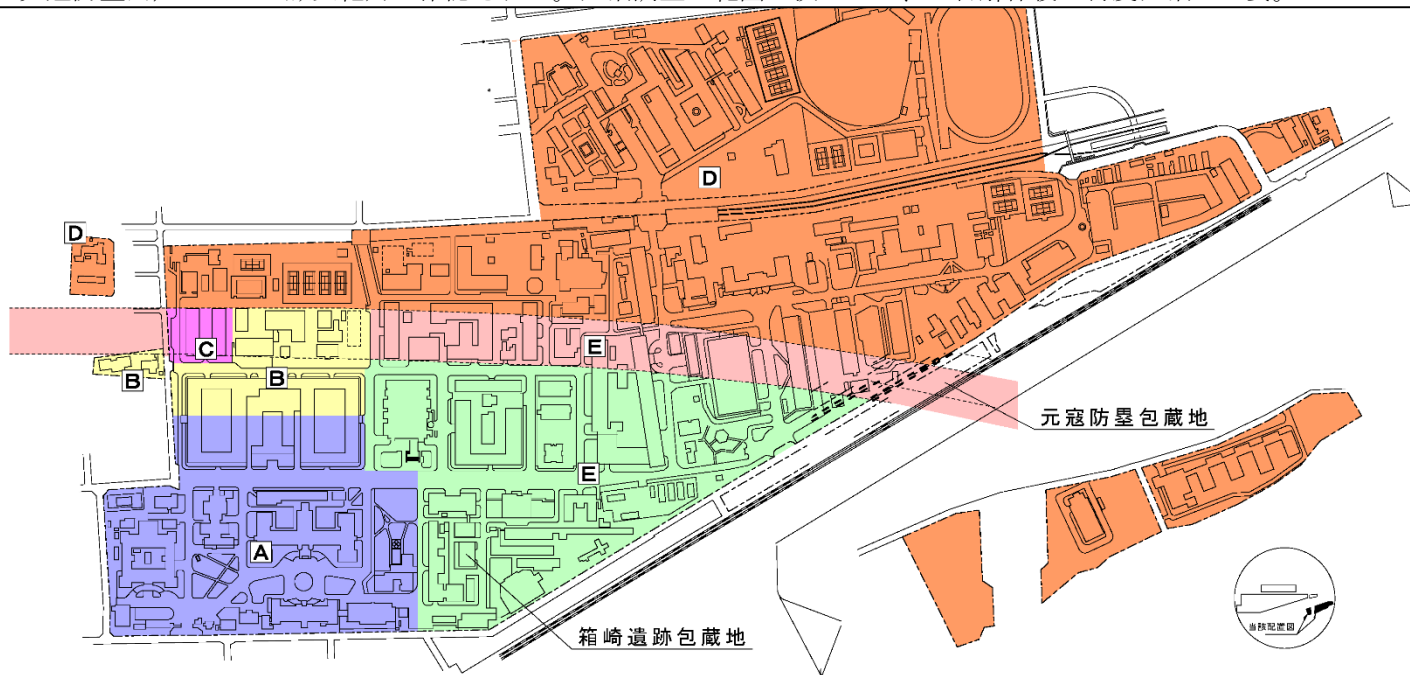


■埋蔵文化財の現状

- ・箱崎キャンパス跡地は、①元寇防塁、②箱崎遺跡という2種類の周知の埋蔵文化財包蔵地に指定されている。また、文系キャンパスを含む包蔵地外のエリアも、福岡市条例により、1,000㎡以上の敷地の再開発においては福岡市教育委員会へ届け出が必要であり、跡地全体について埋蔵文化財調査が必要。
- ・今後の跡地利用に備え、九州大学から福岡市教育委員会へ埋蔵文化財の調査を依頼し、平成24年12月より福岡市教育委員会が試掘調査を実施。
- ・平成27年3月までの試掘調査で、福岡市教育委員会より以下の事前審査結果が示されている。

◆福岡市教育委員会からの事前審査結果（平成27年3月18日付）

- | | |
|----------------|--|
| A区（箱崎遺跡内） | ・・・埋蔵文化財が確認された。開発行為等を行う際には発掘調査が必要。 |
| B区（箱崎遺跡・元寇防塁内） | ・・・埋蔵文化財は確認されなかった。但し、埋蔵文化財包蔵地の為、新規工事等の際は文化財保護法に基づく届出が必要。 |
| C区（元寇防塁内） | ・・・埋蔵文化財は確認されなかった。但し、建物の基礎が浅いため、建物解体の際は、再度確認調査が必要。 |
| D区（包蔵地外） | ・・・埋蔵文化財は確認されなかった。 |
| E区（箱崎遺跡・元寇防塁内） | ・・・埋蔵文化財が確認された。試掘調査の範囲が狭いため、建物解体後に再度試掘が必要。 |





■建築物の現状及び対応

・箱崎キャンパスには、平成27年12月現在で、大小200棟あまりの建物が存在。

・早期の跡地処分並びに土地利用転換を図る為、移転完了した建物より随時、解体作業に入り、土壌汚染及び埋蔵文化財の調査を進める必要がある。

評価

・但し、箱崎キャンパスに残る近代建築物については、九州大学としても歴史を伝える貴重な遺産と認識しており、移転にあたって、平成24年に24棟の建物の建築学的価値や老朽化の具合などを調査した上で総合的な評価を行い、その結果を公表してきた。

(平成24年12月 近代建築物調査ワーキンググループ・平成24年12月 第5回跡地利用将来ビジョン検討委員会)

分類

・また、移転の周辺地域に対する影響を最小限に留めるため、跡地の土地転換を早期に行えるよう、まち形成の目標スケジュールの設定や近代建築物の取り扱いの方向性について協議し公表してきた。

(平成25年12月 第2回箱崎キャンパス跡地利用協議会 他)

【近代建築物 A・B・Cの3グループへの分類を実施】

グループ	取り扱いの方向性
Aグループ	九州大学を象徴する極めて評価の高い建築物で、近代建築物活用ゾーンとして保存・活用を前提とする
Bグループ	比較的評価の高い建築物で、運営主体による費用対効果考慮して取り扱いを検討する
Cグループ	構造的な劣化が著しく、費用対効果を考慮した際、利活用が困難と思われるため、記録保存等を含めた取り扱いを検討する

■近代建築物の今後の方針

グループ分類後の取り扱いの方針を検討する必要があった

・平成27年5月に、学識者を中心とした「近代建築物取り扱い検討委員会」を設置。

委員会にて、運営主体が再活用を検討する為の情報提供及び記録保存の方法を決定し、その取り扱いを進める。

1. 近代建築物活用ゾーンでの取り組み

- ・九州大学を象徴する極めて評価の高い近代建築物(工学部本館、本部第一庁舎、正門門衛所、正門)については、保存・活用を前提に運営主体を探っていくとともに、近代建築物にふさわしい機能を導入する。

<今後の検討方針>

- ・近代建築物の保存・活用にあたっては、耐震補強や大規模改修(ユニバーサル対応、内装・外装のリニューアル等)を伴うため、土地建物の取得や事業手法について、関係者で検討していく。



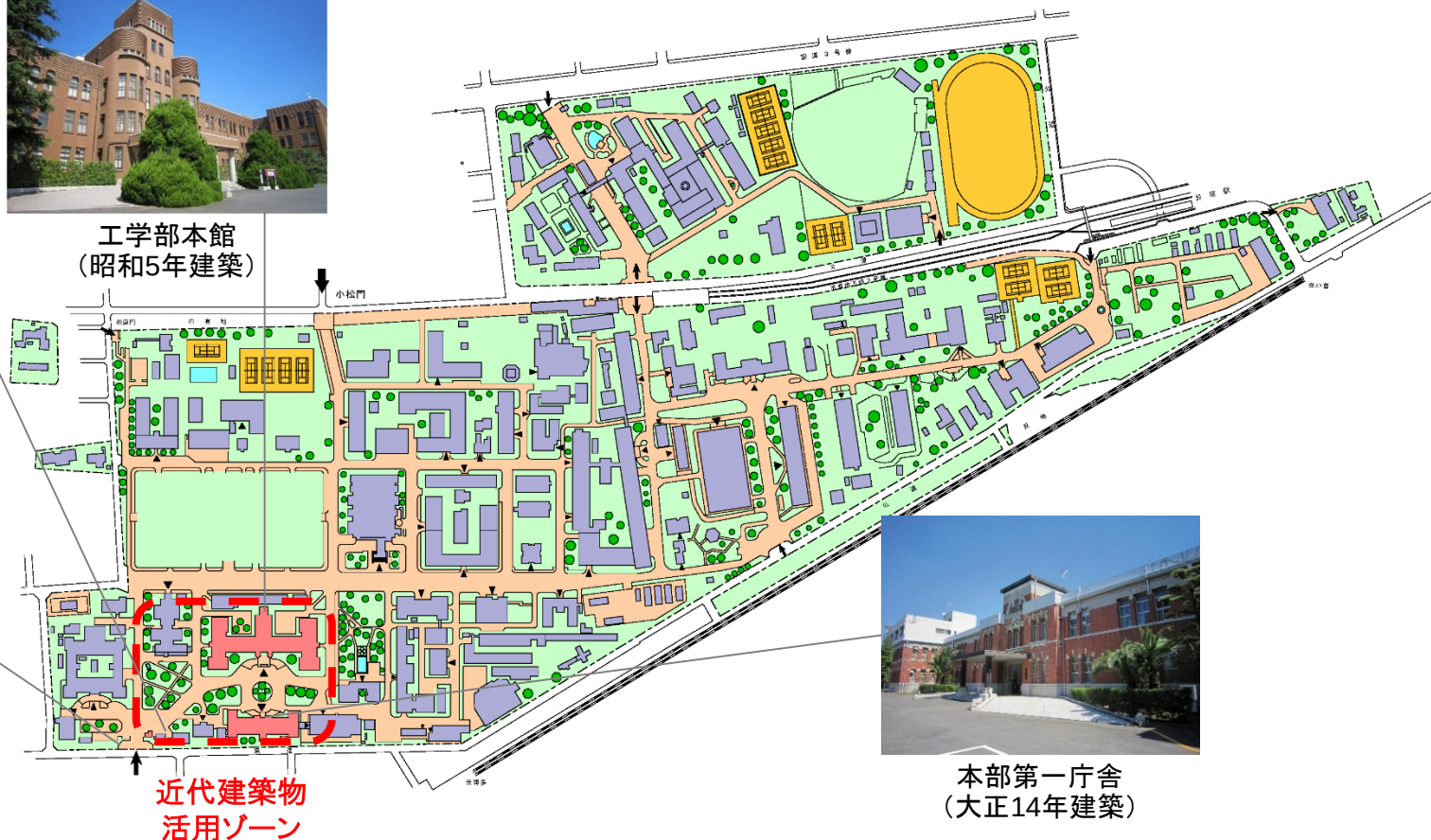
工学部本館
(昭和5年建築)



正門門衛所
(大正3年建築)



正門
(大正3年建築(推定))



本部第一庁舎
(大正14年建築)

2. その他の近代建築物の取り組み

- ・比較的評価の高い近代建築物は、運営主体による費用対効果を考慮して、取り扱いを検討する。
- ・費用対効果を考慮した際、利活用が困難と思われる近代建築物は、後世に残せる復元可能な記録保存等を行った上で解体を行う。

■記録保存及び研究利用

- ・平成27年5月に設置した「近代建築物取り扱い検討委員会」において、運営主体が再活用を検討する為の情報提供の方法とともに記録保存及び研究利用の方法を決定し、その取り扱いを進める。

■記録保存について

【近代建築物 記録保存検討一覧】

記録保存手法	概 要
建築図面	・建築当初の図面を集約。また、建物を記す特徴的な図面については、精緻に修繕した上で、レプリカを作成
映像記録	・プロカメラマンによる建物外観及び内観・装飾等を写真撮影 ・空撮による箱崎キャンパス全体の俯瞰撮影 ・箱崎キャンパス内及び周辺エリアの車載カメラによる動画撮影 ・マスメディアの協力のもと、4Kカメラによる高画質撮影
3次元測定	・最先端のレーザースキャニング技術を応用した3次元測定による、2次元では表現出来ない対象物の意匠や構造の測定
部材保存	・タイル、ガラス、通気口などの象徴的な意匠を記録資料として保存

- ・記録保存の状況については、完了次第、公開していく。

■研究利用について

- ・解体・撤去する建築物より、破壊試験用等の供試体を採取し、記録する。
- ・採取した試料より、近代建築物の耐震診断・改修や耐久性評価などの保存・活用に資する研究成果につなげる。

箱崎キャンパス解体スケジュール

- ・キャンパス移転とその後の土壌汚染及び埋蔵文化財の調査を勘案した建物解体スケジュール
- ・近代建築物については、後世に残せる復元可能な記録保存を行った上で解体等を行っていく

箱崎キャンパス解体スケジュール図（平成27年12月現在）



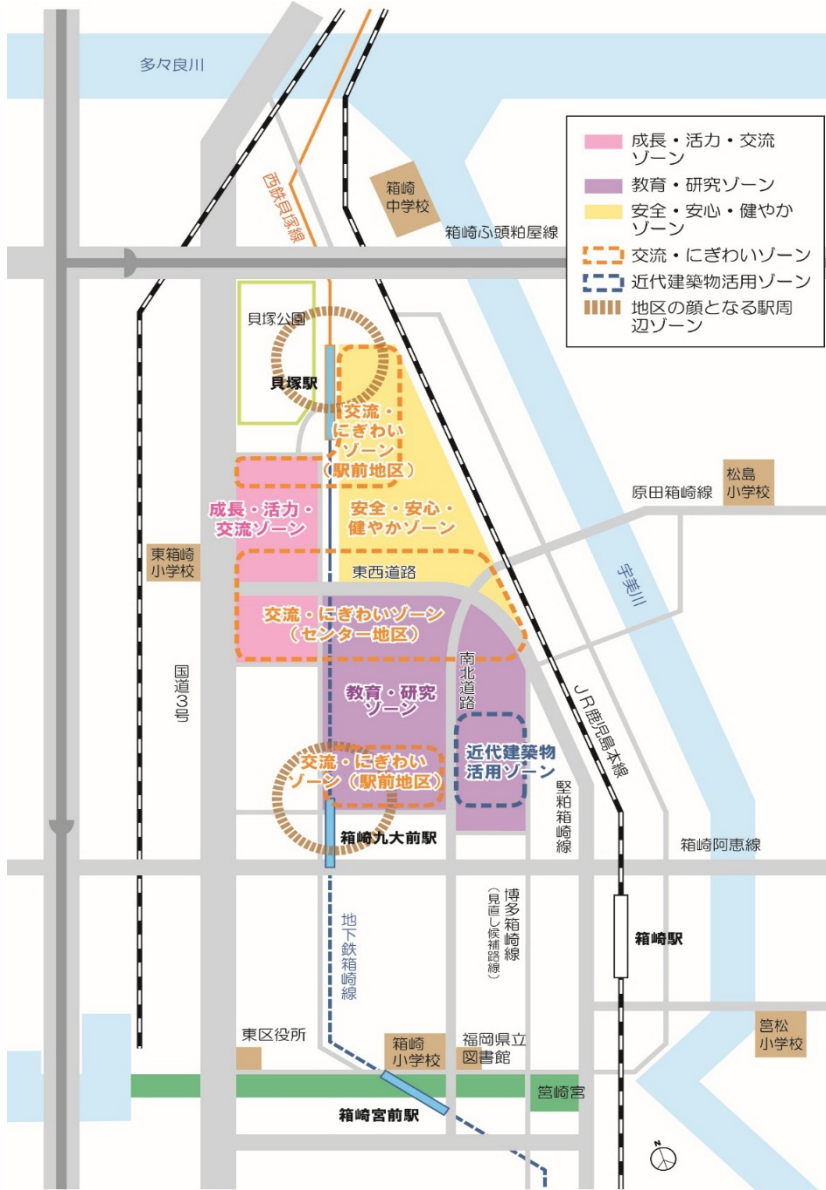
※本スケジュールは現時点での計画であり、今後変更される可能性があります



■ゾーンの考え方

平成27年3月
九州大学箱崎キャンパス跡地利用計画

【土地利用の方針】



■土地利用の考え方

平成27年7月
第6回箱崎キャンパス跡地利用協議会

【土地利用の考え方】





年度	～H25	H26年度 (2014)	H27年度 (2015)	H28年度 (2016)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36年度～ (2024年～)
移転 スケジュール	工学系 (移転完了)		理学系			文系 農学系						

